

(2) 考え、議論する道徳の授業を目指して

四万十市立東中筋中学校

三石 裕子

1. はじめに

東中筋中学校では、平成30年度から令和2年度までの3年間、高知県教育委員会 道徳教育推進拠点校事業の指定を受け、道徳教育についての研究を行ってきた。この指定研究以前、平成28・29年度には高知県教育委員会 道徳科研究指定校事業にも取り組み、新たに教科化される道徳の時間の研究を行っていた。それに続いての3年間の実践研究であった。

本校は道徳教育研究テーマを「よりよく生きる力を育む道徳教育～ともに考え議論し合う道徳科を要として～」と設定しており、道徳科の授業を中心に研究を進めてきた。

実践研究を進める中で課題として浮かんできたのが、「考え、議論する道徳」の授業につながる「発問」と「応答」である。分かり切った問いではなく、「考える必然性や切実感のある発問」とはどういう発問をいうのか、「物事を多面的・多角的に考えられる」ようにするには、どう問えばいいのか、思考を深めるために「生徒の反応を生かして問い返す」にはどうすればいいのか、などについて、日々の授業研究の中で協議を重ねてきた。

ここでは、「道徳教育推進拠点校事業」の4つの研究内容のうち「道徳科の趣旨を踏まえた、『考え、議論する道徳』の授業実践の研究」を取り上げてまとめた。

2. 研究内容

○「道徳教育推進拠点校事業」の研究内容

- ・道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実に関する実践研究
- ・道徳科の趣旨を踏まえた「考え、議論する道徳」の授業実践の研究
- ・道徳科の趣旨を踏まえた評価の在り方に関する研究及び組織的・計画的な評価の推進
- ・家庭・地域との連携を図った道徳教育の実践研究

○研究組織

- ・校内道徳教育推進委員会・・・管理職、道徳教育推進教師からなり、月1回程度開催する。組織的研究に向けた企画・立案・運営及び進捗管理を行う。
- ・学年部会・・・事前研究・授業の実施・参観・事後研究を行う。
- ・学年道徳担当者会・・・各学年1名の道徳担当者からなり、必要に応じて開催する。学年間の調整や具体的な取組の確認や情報交換を行う。

○到達目標

1 道徳意識調査の肯定的評価

- ・「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりしながら、自分の生き方についてよく考えている」 95%以上
- ・「自分には、よいところがあると思う」 80%以上

2 道徳授業チェックシート（教師用・最高値4）平均

- ・「考える必然性や切実感のある発問、物事を多面的・多角的に考えられる発問をしている」 3.2以上
- ・「児童生徒の反応を生かし、問い返すなどして思考を深めるようにしている」 3.2以上

3. 実践

①道徳の時間の指導方針

道徳科の授業のポイントである「道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深める」「一面的な見方から多面的・多角的見方へと発展させる」ことの実現に向け、道徳の時間の指導方針を以下の3点に設定し、授業に取り組んだ。

- ・各教科、特別活動、総合的な学習の時間等での学習内容や体験を授業に生かす。
- ・ペアやグループ、全体での意見交流の場を充実させる。
- ・考え、議論する授業を通して、道徳的価値に対する考えを深められるようにする。

②道徳の授業づくりの流れの確認

道徳の時間の指導方針を具体的に授業に生かすために、年度初めに道徳の授業づくりの流れについて共通認識を図り、授業内容の充実につなげた。

- 学習指導要領を読む
- 教材を読む
- 実生活での例示を考える
- この時間に考えさせたいことを押さえる
- 生徒の言葉で引き出したい考えを書く
- 指導方法の工夫を考える

横山利弘先生や高知大学教育専攻教授のお話を参考に整理しました。

12/4/3 校内研

道徳の授業づくりの流れ

- 学習指導要領確認で、指導項目の内容を確認する
- 教材を読む

読書教材の場合の基本

 - ＊変化したのは誰か（この人を感じる）
 - ＊変化した出来事は何か
 - ＊変化した場面はどこか
- 実生活での例示を考える
 - 指導項目（内容項目）についての生徒の実感
 - 既習事項
 - 他の教育活動との関連
 - 生活体験 など
- この時間に考えさせたいことを押さえる

中心発問

 - ＊行動だけ書かれていて、ここが書かれていないところを問う
 - ＊道徳的に変化した人物が、変化した場面での心構えを問う
 - ＊道徳的問題を解決するために大切なことやその意義を問う
- 生徒の言葉で引き出したい考えを書く
- 指導方法の工夫を考える

留意点

 - ＊高難ありきではない、必要かどうか
 - ＊時間内に授業を終えるよう、発問や活動を絞る。
 - ＊授業者がしぼり過ぎない。

【発問例】

<自分との関わり>

- 考えさせたいことや問題は何かを考える
- 登場人物について共感的に考える
- 自分ならどうするか、どう思うかを考える
- 自分なりの変化や成長、自分の生き方や生活への活かし方を考える

<多面的・多角的>

- 人物の考え方の相違から考える
- 時間や場面の違いから考える
- 立場の違いを考える
- 意見交流や議論を促す

<道徳的問題>

- 人間の弱さや人間らしさにも着目しながら、人間理解を深める
- 道徳的価値の理解を深め、その意味を考える

③指導方法の工夫

教材理解

道徳の授業で教材をもとに考えるためには、教材の内容を皆が理解しておくことが前提である。一度の範読だけで内容を理解できる生徒もいればそうでない生徒もいるため、発問に入る前に内容を理解させ、その後の思考の助けになるよう、以下のような工夫をしている。



大型テレビに提示



表にまとめて提示



朗読CDと並行して提示



範読後生徒同士で確認

発問

授業の振り返りを見ると、中心発問に関して様々な課題が記されている。話し合い活動を充実させたり生徒の思考を深めたりする発問や問い返しが効果的にできるよう、実践から明らかになった課題をもとに、学習指導案の検討では視点を持って発問や問い返しの改善を図った。

【中心発問と振り返り】(抜粋)

教材（項目）	中心発問	振り返り
目標は小刻みに (A4)	走る目標にした木立や電柱を越えるたびに、「私」はどのようなことを考えていただろう。	人間の弱さについての部分で体験と重ね合わせることで更に深く考え自分ごととして捉えられる。

いつわりのバイオリン (D22)	フランクはロビンへの手紙にどんなことを書いたのだろう。	「謝る」という発言に対して、何を謝るのか、何に対して謝るのか、それはどういう気持ちから来ているのかを聞いてみるとよかった。
ミスター・ヌードルー—安藤百福— (A5)	安藤さんがインスタントラーメンを完成させることができたのはどうしてだろう。完成までに必要だったことは何だろう。	「ポジティブ」「努力」等の言葉が出た時に、どうしてそう思ったのかともう一押しするとさらに具体的に言えたのではないかな。
ジョイス (A1)	ジョイスが周りに止められながらも翌日の試合に出ることにしたのはどうしてだろう。	中心発問で「もし審判をしなかったらガララーガのチームは何を感じたのだろう。」という問い返しも面白そう。
ガストロカメラ (A5)	杉浦や宇治たちが、困難や失敗にくじけずチャレンジを続けることができたのは、どのような思いがあったからなのだろう。	第1発問の補助発問と中心発問で出てくる反応が重なったので、発問内容の整理が必要。
仏の銀蔵 (C10)	証文つづりが無いのに、人々がお金を返し始めたのはなぜだろう。	借金をした人々が、返さない自分自身に目を向けた、ということに生徒が気づくと良かった。返さないという行為に対して自分自身の心が揺らいだからこそ返し始めた、と心情に迫ると良かったのでは。
襟裳のこと (D20)	襟裳の再生を通じて、人々の自然に対する考えがどう変わったのだろう。	補助発問がねらいへとつながらなかった。中心発問では、予想される反応をしっかり練り、どのように広げていくかという事前の設計が必要。
独りを慎む (A2)	「誰が見ていなくても、独りでいても慎むべきものは慎まなくてはならない」についてどれくらい共感しますか。	中心発問で生徒からの考えがでたときに、“そういう経験はある？”と自分との関わりで答えさせる発問もできたのではないかな。
原稿用紙 (B6)	お互いに相手に対してどういう思いをもっているのだろう。	「長いこと付き合えたのはどうしてだろう」と、中心発問で問い返してもよかった。

【発問に関する課題】



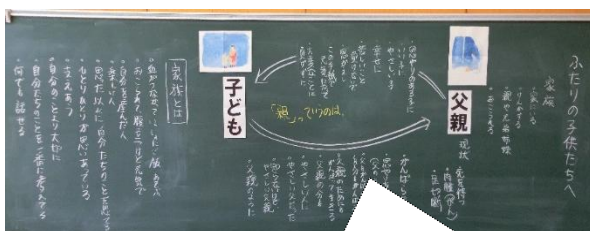
- ▼予想した反応が出ない ▼中心発問で深まらない ▼出た意見にどう問い返したらいいか
- ▼問い返した後の進む先が分からない

【学習指導案検討での視点】

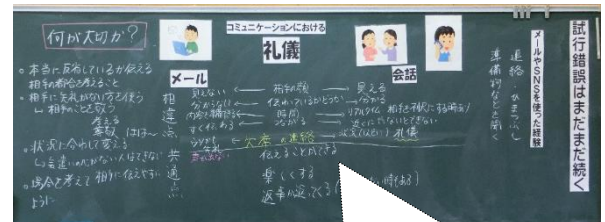
- この問い方（表現）で、何を考えたらいいか生徒は理解できるか
- 多様な考え方が出てくる発問か ○生徒の反応は他には考えられないか
- この内容項目の多面・多角とは何か ○生徒の生活とどうつながるか

板書

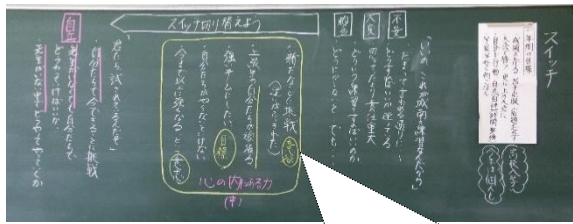
板書には生徒の意見が記されていくが、生徒の発言すべてを記録するものではない。生徒の思考の流れが見えたり、思考を深めていく助けになったりするように、板書すべきポイントや板書する内容の軽重などを考え、構造的な板書を心がけている。



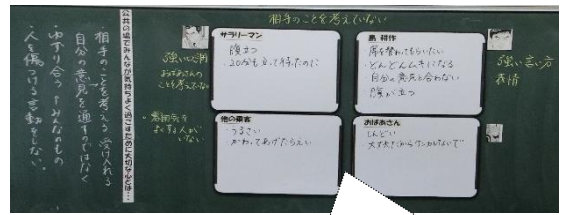
父親と子供の思いを対比することで、家族についての考えを深める。



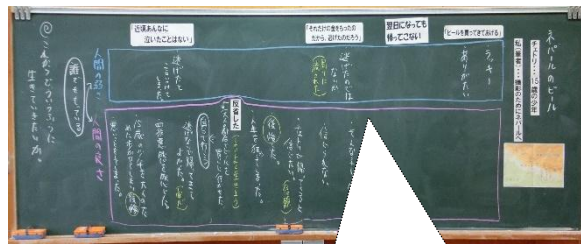
会話とメールの相違点を比較することで、コミュニケーションにおける礼儀を考える。



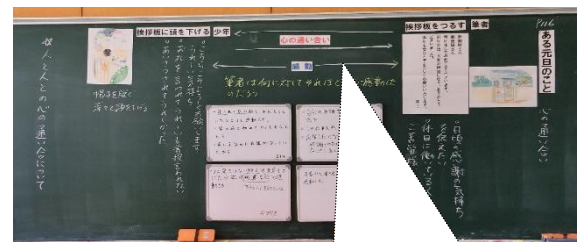
登場人物の変容を追うことで、自分の内なる力について多面的・多角的に捉える。



登場人物それぞれの心情を比較することで、公共の場での心のありようを考える。



筆者の弱さと良さを対比することで、人間としての生き方を考える。



登場人物の心情を対比することで、双方の思いやりと感謝の念を捉える。

思考ツール

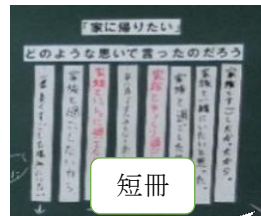
話し合い活動を活発にし、考え議論する道徳の授業にするためには、生徒が自分の考えを持つことが前提にある。自分の考えを發表することが苦手な生徒でも、自分の考えを表現できるように、思考ツールを活用している。



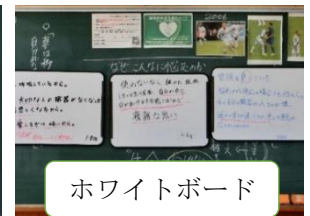
心情円



ネームプレート



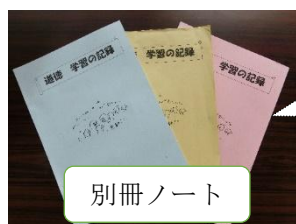
短冊



ホワイトボード

お互いの考えや全体の傾向を知ることができる。

意見を分類することができる。



別冊ノート

発問に対する自分の考えや、授業全体を通して感じたり考えたりしたことを文章でまとめる。

話し合い活動の形態

授業には必ず意見交流の場を設定しているが、生徒の状況、発問の内容、展開によって、形態を選択している。



ペア



グループ



コの字



円

④学年部の取組

道徳の授業は学年部単位で取り組んでいる。授業は輪番で行う。全員が授業を担当することで、授業や生徒の課題を共有し、各自の授業改善につなげることができる。

- ・事前研究・・・週時程内に設定。授業者が作成した学習指導略案をもとに発問等を検討。
- ・授業・・・参観者は授業者を支援したり、生徒の発言や様子を評価メモに記録したりする。
- ・事後研究・・・放課後に行う。授業を振り返り、成果や課題等を確認する。生徒の評価についても確認する。



⑤「つけたい力」との関わり

本校では、生徒につけたい力として、「コミュニケーションをとる力」、「表現する力、プレゼン力」を設定している。「考え、議論する道徳」の授業は、自分の考えを表現することや友達の考えを受け止め、それに対する自分の考えを表現することが繰り返されることで成立する。道徳の授業で思考を深めていくためにも表現力やコミュニケーション力は欠かせない。この力をつけるために、教科等や朝読書の時間を活用した取組を行っている。

【教科等での取組】

単元配列表を活用し、どの単元、教材、活動で意識的に取り組むかを設定。教育活動全体で「つけたい力」の育成を図る。1月の総合的な学習の時間の学習成果発表会を目標行事とし、成果を検証する。

【Peratto を活用した取組】

自分の考えを持ち、自分の言葉で表現できるようになることを目指した取り組みである。2分間で記事を読み、それについて考えたことを30秒間話すと内容で、ペアで行う。

(Peratto: 高知新聞社が県内中学生向けに発行しているニュースター)

令和2年度 高知市立東中中学校 単元配列表 第3学年		知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成 自ら考え、主体的に判断し行動できる生徒の育成												付けたい力	コミュニケーションをとる力					
研究主題		～進んで学習に取り組める生徒												～進んで認め合い支え合う生徒		～いじめや差別を許さず、自他ともに伸びる生徒				
めざす生徒像		～自主・自律の行動ができる生徒												～表現する力、プレゼン力		～表現する力、プレゼン力				
科目	単元	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
国語	春に読んだ本を振り返る	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える	読む楽しさを伝える
社会	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記	二つの世界大戦日記
数学	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式	多項式
理科	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める	天体観測を始める
音楽	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ	音楽の歴史を学ぶ
美術	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する	風景のフォルムを表現する
保健体育	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり	体力づくり
技術・家庭	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える	わたしの成長を伝える
英語	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables	My A History of Vegetables
道徳	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる	自分を知り、自分のこれからを生きる
総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間
字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動	字練習活動
生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動	生徒会活動
学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事	学校行事
人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)	人権(特設)

⑥授業評価と実践のサイクル化

授業後には学年部で事後研究を行う。そこで出た意見や使用したものはデータや紙面で残していく。残された記録は、うまくいったこと、いかなかったこと、どちらもが次の授業を組み立てるうえでの参考になっている。また、授業についての評価は、授業の振り返りや生徒の授業評価、授業力チェックシートで行っている。集計結果等をもとに授業の課題を把握し、授業改善につなげている。

第2学年道徳学習指導略案

令和2年6月18日(六) 第4校時

- 1 主題名 自らを律し、誠実に実行する A-(1) 自ら、自ら、自らを律し
- 2 ねらい 小さい自分のしつけが持つ意味について考え、判断し、誠実に実行することの良さや知恵を理解し、それを新たな意図で自らの生き方しようとする道徳的態度を養う。
- 3 教材名 「小さいこと」(『自分を考える』 藤原あかつき)
- 4 学情物 掲示物 ハワイポイント 電子黒板
- 5 本時の展開

学習活動	主な展開と予想される生徒の反応	② 中心時間	指導上の留意点
導入	1 自分の生活を振り返る。	○あなには、生活の中で、自分で決めて続けていることはありますか？ ・お風呂そうじをする ・犬の散歩をする	・授業がやっていることを紹介してから生徒に問いかける。 ・家庭向けアンケート
展開	2 教材を読んで考える。 (1) 「ごく小さい自分のしつけ」とはどのようなものを整理する。	○「ごく小さい自分のしつけ」(使用の取組を揃えること)について監者の思いを整理してみよう。 ・他人に知られず/ひそかに ・10年間続いている ・離れても/死ぬまで続ける ・他人のためになる ・よいこと ・気持ちいい ・自分で決めたこと (・・・することにした)	・個人→ペアでキーワードを思い出させる。 ・出されたものをグループングして板書する。
展開	(2) 生き方とのつながりを考える。	○「ごく小さい自分のしつけが、他のことでも自分を表している」とはどういう意味だろうか。 ・必ずやることと決めてやっていること、他のことと同じようにやってみよう。 ◎監者が「ごく小さい自分のしつけ」をやってきたよかったことにはどんなことがあるだろう。 ・他のことと、自分で決めてきちんとやり続けようと思うようになる。 ・気持ちがいいので、またやろうと思うし、自然に続けることができる。 ・自分で決めてやっていることは、自分を形作っているのだと思う。 ・自分を形作らせてくれる。	○ひとつの小さな習慣がもたらす自律的な生き方の良さについて、多面的に捉えさせる。
終末	3 まとめ(感想)		毎日の生活で、自分で決めて実行している具体的な例についても取り上げて、その良さや大切さを目を付けさせる。 ・ノート56に記入する。

【授業の振り返り】

授業の振り返りで考え、判断し、実行することの意義や、自律的な生き方について考えを述べた発言や記述がある。

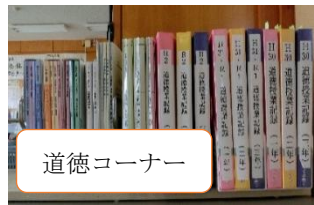
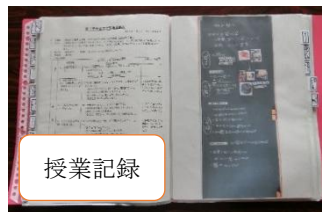
【授業の振り返り】

生徒の発言を個人で取ったのがよかった。それを電子黒板に記録しておいたので、終末にも役立った。

自律に着目するため、「自分で決めてやっている」と質問行はよかった。

生徒が振り返っていることを色分けして、自律、自主など、そこに分類されるか聞いてみたよかったです。

話し合いが深まりそうな生徒の答えに対して、「それはどうして？」と切り返したのがよかった。



【生徒による評価】

※ 授業評価 ※

- 1 教材の内容は理解できましたか。(4・3・2・1)
- 2 先生の質問は分かりやすかったですか。(4・3・2・1)
- 3 発問について考えることができましたか。(4・3・2・1)
- 4 自分の考えや思いを発表できましたか。(4・3・2・1)
- 5 友達の話や思いを聞けましたか。(4・3・2・1)
- 6 教材を自分のこととして考えることができましたか。(4・3・2・1)

【サイクル化の流れ】

授業の事後研究

授業評価

授業記録の保存

- ・ 学習指導略案
- ・ 板書写真
- ・ 評価メモ
- ・ 掲示物

授業改善 次の授業の参考

4. 成果(○)と課題(▲)

○道徳意識調査と道徳授業チェックシートの数値が上昇した。(年度当初→年度末)

- ・「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりしながら、自分の生き方についてよく考えている」 96.9%→100.0% (目標 95%以上)
- ・「自分には、よいところがあると思う」 65.6%→81.3% (目標 80%以上)
- ・「考える必然性や切実感のある発問、物事を多面的・多角的に考えられる発問をしている」 2.7→2.9 (目標 3.2以上)
- ・「児童生徒の反応を生かし、問い返すなどして思考を深めるようにしている」 2.8→3.2 (目標 3.2以上)

○生徒が、授業中にテーマに沿った記述や意見交流ができるようになってきた。また、振り返りの内容が充実してきた。

○授業を実施するにあたって、ねらいを明確にした発問や活動ができるようになった。

○学年部による事前研究、授業、事後研究という体制は、他の先生からの意見等で見方を広げることにつながり効果的だった。

○毎時間の振り返りは、個人では気づかないことや改善点が明らかになり、次の授業に生かすことができた。

▲生徒は発言できるが、議論するところまでは至っておらず、生徒同士の関わりで思考が深まる授業を目指す。

▲ねらいに迫る発問と応答の仕方についての研究を継続する。

▲他学年の授業内容を知ること、授業に系統性を持たせていく。

▲指定研究終了後、これまでの授業記録を最大限生かしていく。